

2-3-2 地域

本調査は、地域におけるV活動ツールの利用実態を把握するために実施されたものである。先に調査概要で示したように、205団体を対象として145団体から有効回答を得ることができた(回答率は70.7%)。

地域通貨を使用している団体のリストがあったため、V活動ツールとして地域通貨を使用している団体の数が多くなっている。またV活動ツールの実施時期は1951年から2003年10月まで様々だが、最頻値(最も多い実施開始時期)は2002年4月であるため、本調査は比較的新しく取り組みを始めた団体の実態が反映されていることにも留意されたい。

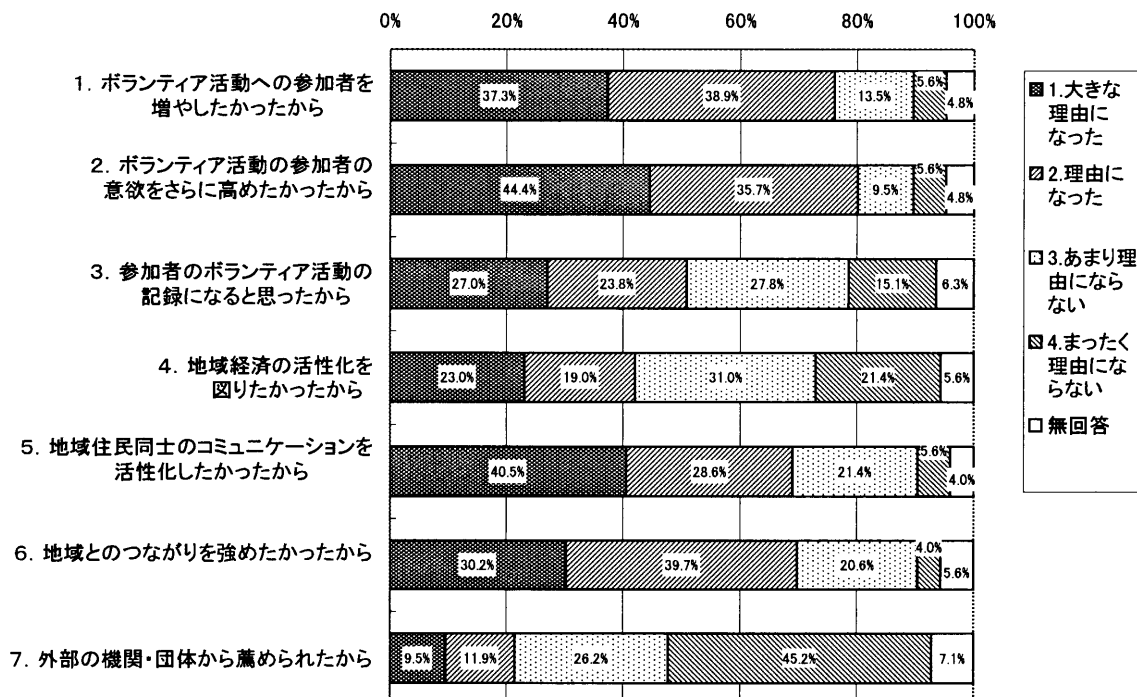
以下、調査結果について、要点をまとめながら報告する。

< 単純集計 >

(1) 導入の目的

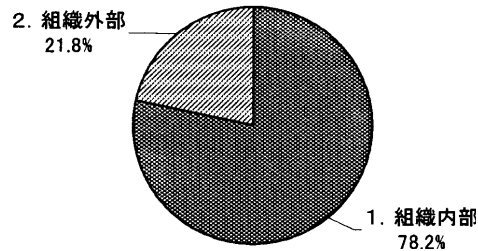
V活動ツールの導入理由について質問したところ、「大きな理由になった」および「理由になった」の回答が最も多かったのが「ボランティア活動の参加者の意欲をさらに高めたかったから」であり、次いで「ボランティア活動への参加者を増やしたかったから」であった。続いて「地域とのつながりを強めたかったから」「地域住民同士のコミュニケーションを活性化したかったから」が上位を占めた。学校編の回答で上位を占めた「参加者のボランティア活動の記録になると思ったから」は下位に留まった。

図表 地-1 V活動ツールを活用した理由(きっかけ)



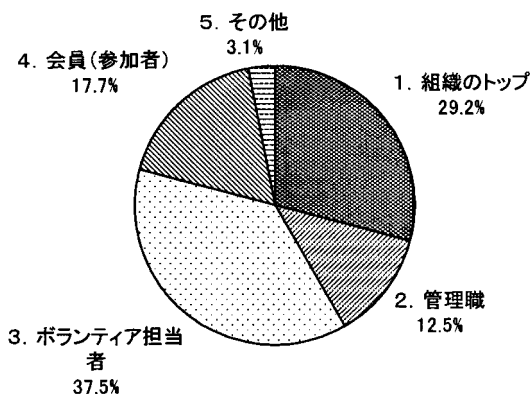
導入したのは、「組織内部からの提案」か、「組織外部からの提案」かについては、組織内部からが78.2%であった。

図表 地-2 組織内部・外部

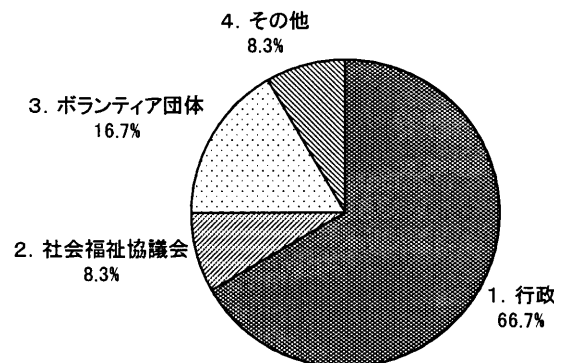


組織内部からの場合、「組織のトップ」と「管理職」合わせて41.7%、「ボランティア担当者」37.5%、「会員(参加者)」17.7%と学校とは違って、ボトムアップ的な提案が半分を超える。組織外部からの場合、その66.7%は「行政」である。

図表 地-3A 内部からの場合



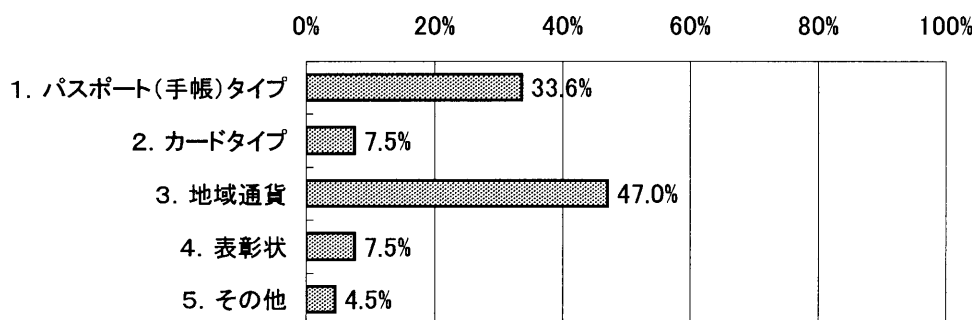
図表 地-3B 外部からの場合



(2) V活動ツールの形態・内容

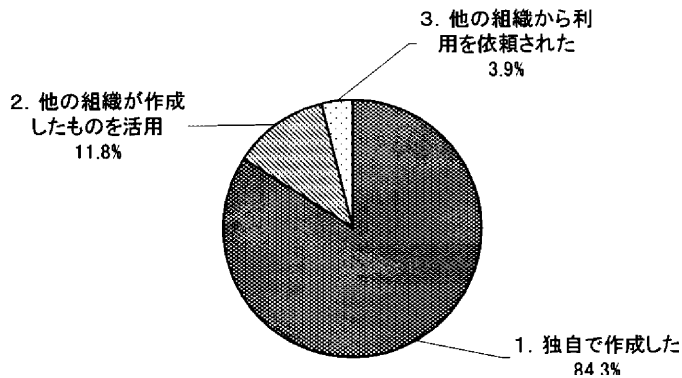
使用されているV活動ツールの形態について質問したところ、「地域通貨」が47.0%、続いて「パスポート(手帳)タイプ」が多く33.6%であった(複数回答)。

図表 地-4 形態



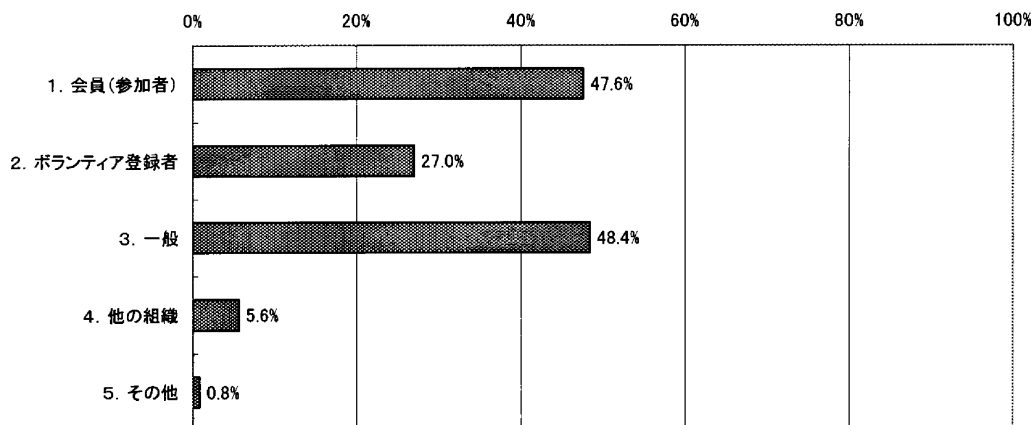
V活動ツールの開発状況については、「独自で作成した」が84.3%と圧倒的に高い。この点は、学校とは大きく異なる。

図表 地-5 開発状況



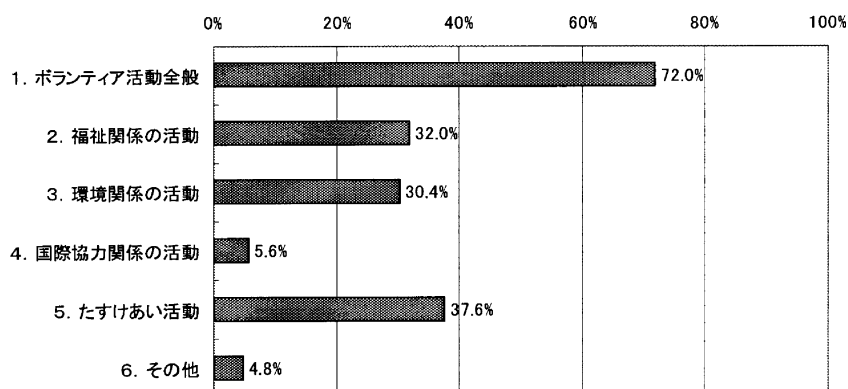
V活動ツールの配布対象者は、「一般」が48.4%、「会員（参加者）」が47.6%で、ほぼ並んだ。対象を制限することなく配るか、何らかの会員制を敷くか、半々に分かれる（複数回答）。

図表 地-6 配布対象者



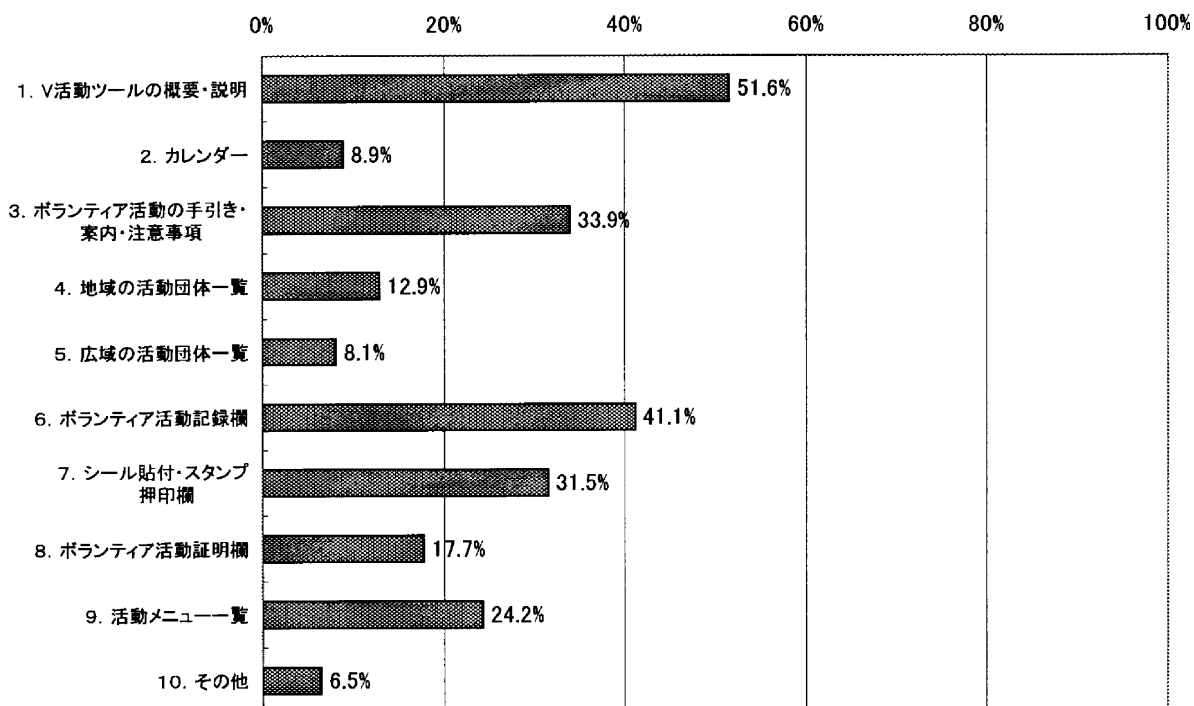
V活動ツールの対象となる活動については、「ボランティア活動全般」が72.0%と高い。「たすけあい活動」「福祉関係の活動」「環境関係の活動」も30.0%を超えている（複数回答）。

図表 地-7 対象となる活動



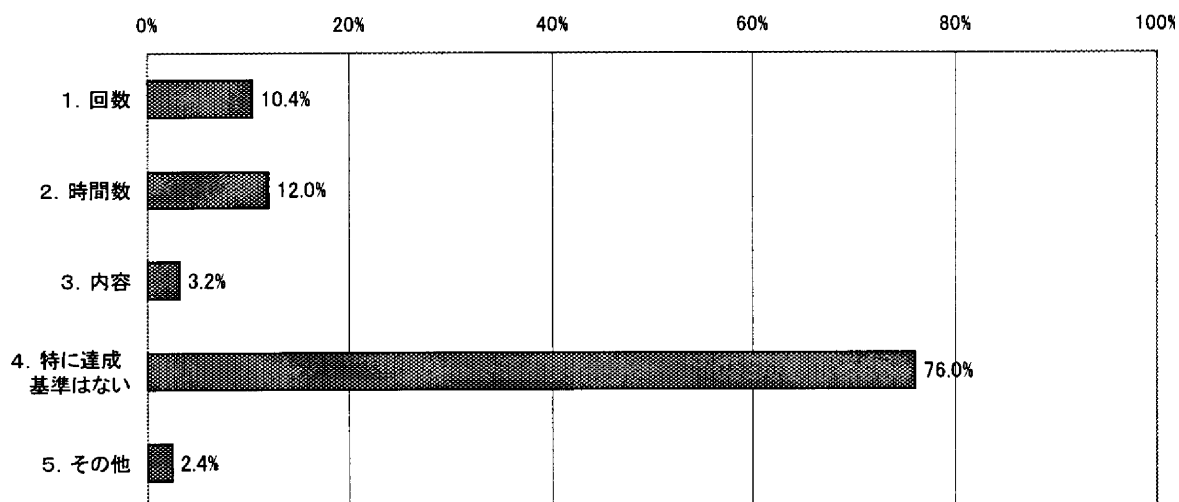
V活動ツールに掲載されている内容については、「V活動ツールの概要・説明」が51.6%。「ボランティア活動の手引き・案内・注意事項」が33.9%。「ボランティア活動記録欄」は41.1%、「シール貼付・スタンプ押印欄」は31.5%となっており、実績を残すしくみは、学校のようには高くない(複数回答)。

図表 地-8 掲載・添付されている内容



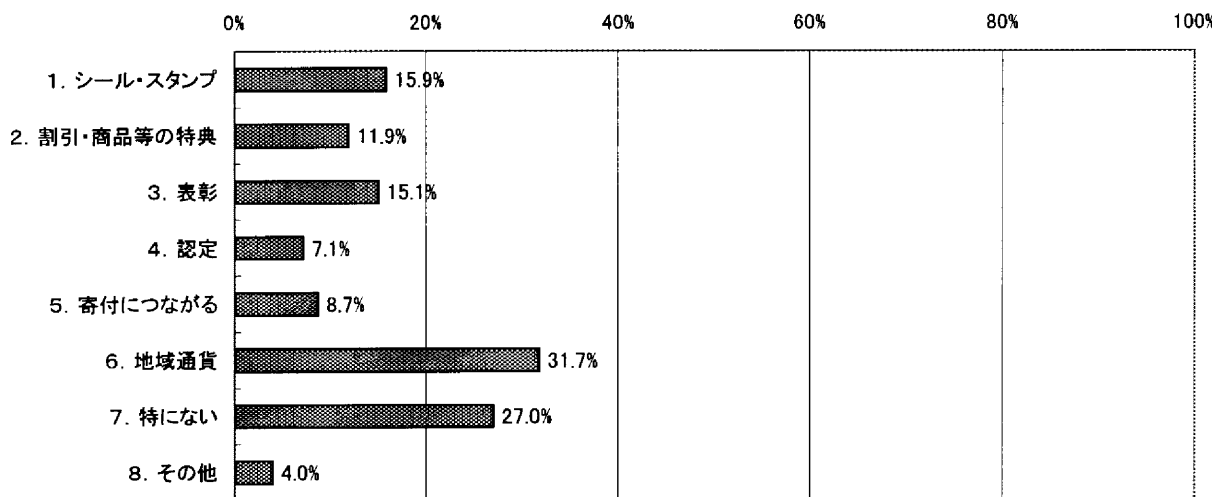
達成基準については「特に達成基準はない」が76.0%で、高い。(複数回答)。

図表 地-9 達成基準



さらに、V活動ツールの利用を促進させようとするインセンティブについては、「地域通貨」が31.7%と最も高く、続いて「特にない」が27.0%であった。「シール・スタンプ」「表彰」はそれぞれ15.9%、15.1%に留まった。地域の組織でも、児童も対象にしているところが多いので、「シール・スタンプ」「表彰」もあり得る。但し学校と比べると極めて低い（複数回答）。

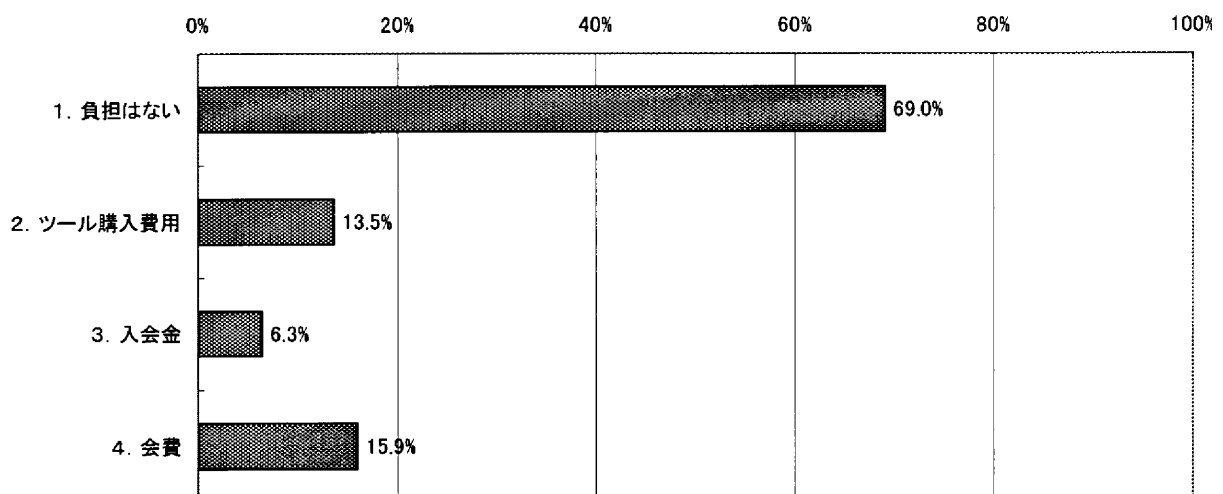
図表 地-10 インセンティブの内容



(3) 実施の方法

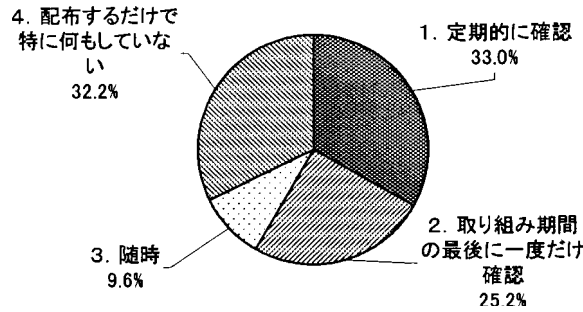
V活動ツールの費用負担については、「負担はない」が69.0%であり、残りは「会費」、「ツール購入費用」等、何らかの自己負担がある（複数回答）。

図表 地-11 利用者負担



配布後の確認方法については、「定期的に確認している」、「取り組み期間の最後に一度だけ確認している」と「随時確認している」を合わせた数、「配布するだけで特に何もしていない」がそれぞれ30%台の前半で分かれた。

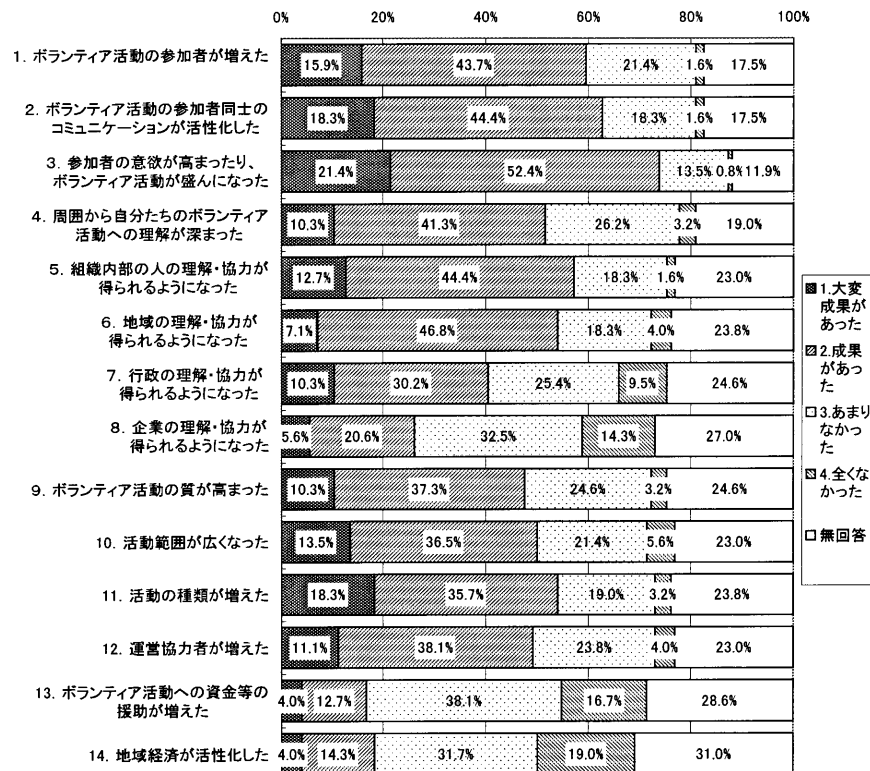
図表 地-12 把握のしかた



(4) 導入の成果・評価

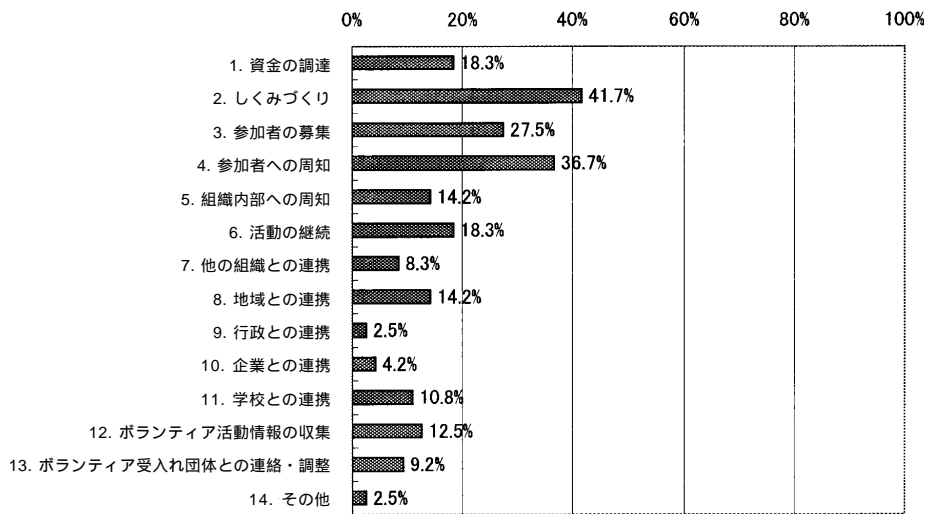
今回、配布数については、平成14年度が平均22,242枚、地域通貨の場合は1,105人、平成15年度が12月末までの回答であるが、14,143枚、地域通貨870人となっている。導入したことによる成果については、「参加者の意欲が高まったり、ボランティア活動が盛んになった」が最も高く、続いて「ボランティア活動の参加者同士のコミュニケーションが活性化した」「ボランティア活動の参加者が増えた」が高かった。一方「ボランティア活動への資金等の援助が増えた」「地域経済が活性化した」はいずれも10%台の後半に留まり、低かった。

図表 地-13 導入の成果



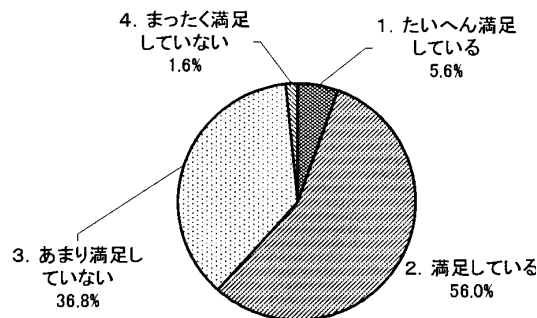
V活動ツールを活用する際に苦労した点の上位には「しくみづくり」「参加者への周知」が挙げられている（複数回答）。

図表 地-14 V活動ツールを活用する際に苦労した点



満足度については、「大変満足している」と「満足している」を合わせて61.6%であった。

図表 地-15 満足度



(5) ボランティアに対する意識

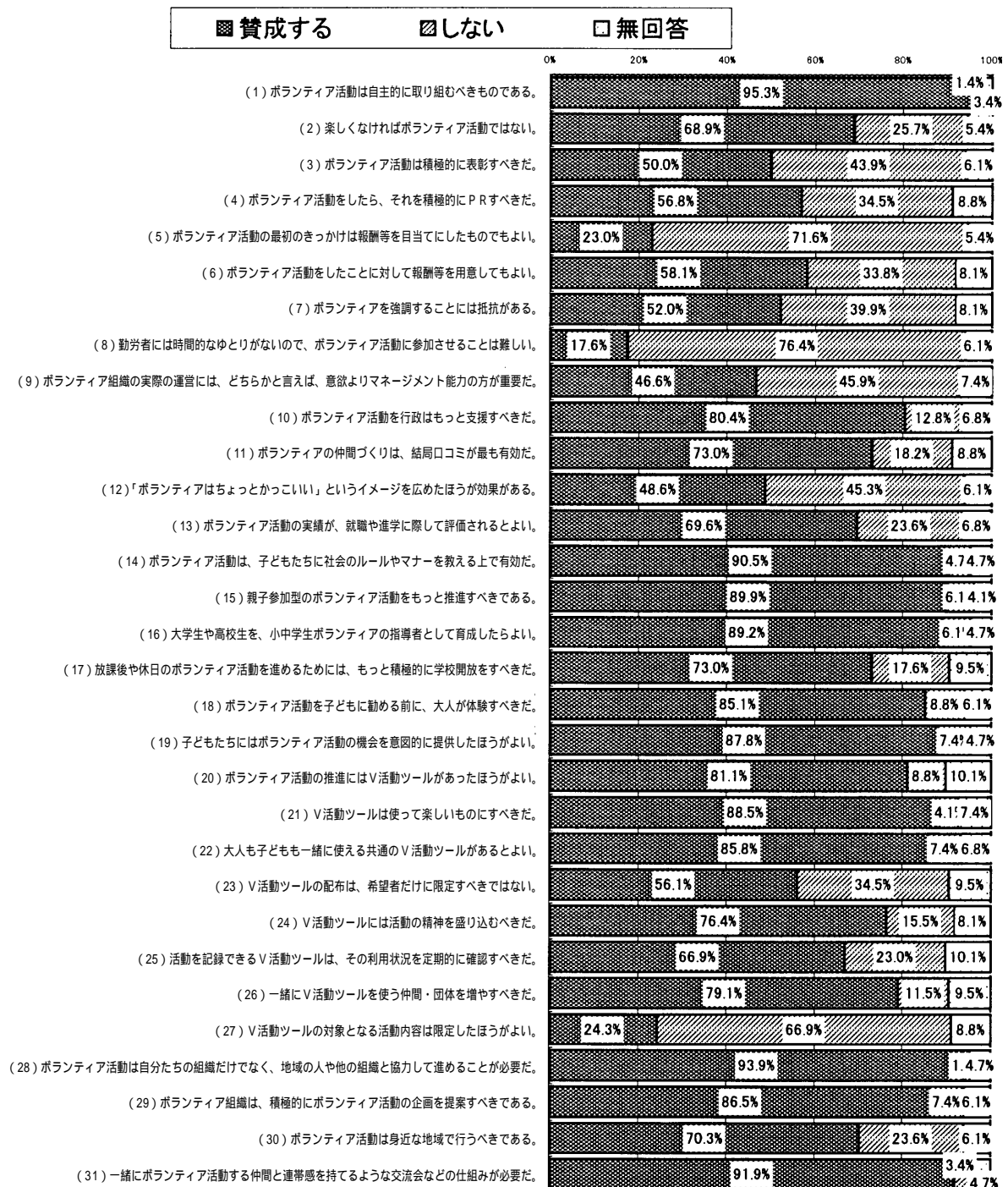
今回の調査ではV活動の実態調査だけでなく、回答者（団体の担当者）に「ボランティア」に対する意識についても質問した。31の質問を設け、その回答も「賛成する」「賛成しない」の二者択一での回答となっている。

このうち、「(1) ボランティア活動は自主的に取り組むべきものである」「(28) ボランティア活動は自分たちの組織だけでなく、地域の人や他の組織と協力して進めることが必要だ」「(31) 一緒にボランティア活動する仲間と連帯感を持てるような交流会などの仕組みが必要だ」「(14) ボランティア活動は、子どもたちに社会のルールやマナーを教える上で有効だ」の順に「賛成する」が90%以上となっている。続いて「(15) 親子参加型のボランティア活動をもっと推進すべきである」「(16) 大学生や高校生を、小中学生ボランティアの指導者として育成したらよい」が、89%台であり、地域の人を幅広く組織することに関心は高い。「(20) ボランティア活動の推進にはV活動ツールがあったほうがよい」については、学校とほぼ同様の81.1%であった。「(17) 放課後や休日のボランティア活動を進めるためには、もっと積極的に学校を開放すべきだ」は73.0%で、

学校側の43.5%に比べて、大きな差が出た。その他、学校と同じ質問で差が出たのは、「(2)楽しくなければボランティア活動ではない」が68.9%。学校は41.1%であった。

地域編独自の質問では、「(9)ボランティア組織の実際の運営には、どちらかと言えば、意欲よりマネージメント能力の方が重要だ」は、賛成反対が半々であった。「(10)ボランティア活動を行政はもっと支援すべきだ」は賛成80.4%。「(11)ボランティアの仲間づくりは、結局口コミが最も有効だ」が73.0%で、妙手はないというところなのだろう。

図表 地-16 ボランティア活動に対する意識



< クロス集計 >

クロス集計では、全体に地域通貨と他のパスポート（手帳）タイプ等、どの形態を採っているかにより回答内容の違いが顕著であるため、主な結果を形態別にまとめている。なお非該当・無回答の集計は除外しており、単純集計の数字とは差異があるので注意されたい。

(1) 導入の目的

パスポート（手帳）タイプ、カードタイプでは、「ボランティア活動への参加者を増やしたかったから」「ボランティア活動の参加者の意欲をさらに高めたかったから」「参加者のボランティア活動の記録になると思ったから」が高いのに対して、地域通貨では、「地域住民同士のコミュニケーションを活性化したかったから」「地域とのつながりを強めたかったから」が高い。「参加者のボランティア活動の記録になると思ったから」については、理由になったが28.1%でしかない。

地域通貨においては、「地域経済の活性化を図りたかったから」も55.9%で比較的高く、パスポート（手帳）タイプ、カードタイプとの差が大きい。

図表 地-17 形態別導入の理由

	1.参加者を増やしたい	2.意欲を高めたい	3.記録になる	4.地域経済活性化	5.地域住民コミュニティ	6.地域とつながり	7.外部団体薦め
全体集計	80.0%	84.2%	54.2%	44.5%	71.9%	23.5%	23.1%
地域通貨	74.1%	73.7%	28.1%	55.9%	90.2%	81.4%	24.6%
除地域通貨計	81.3%	92.3%	77.8%	33.9%	53.2%	67.7%	19.4%
パスポートタイプ	84.4%	93.3%	88.6%	32.6%	51.2%	62.8%	23.3%
カードタイプ	90.0%	100.0%	80.0%	20.0%	60.0%	70.0%	10.0%
表彰状	55.6%	80.0%	22.2%	55.6%	55.6%	88.9%	11.1%

(2) V活動ツールの形態・内容

組織種別に採用しているV活動ツールの形態をみた場合、まず目を引くのが、NPO等の76.4%が「地域通貨」を採用していることである。社会福祉協議会では「パスポート（手帳）タイプ」が72.2%、教育委員会では、同じく「パスポート（手帳）タイプ」が57.1%で一番であった。自治体では「地域通貨」が42.9%で一番、続いて「パスポート（手帳）タイプ」が35.7%であった。商工会は100%「地域通貨」である。財団法人等では「パスポートタイプ」と「表彰状」が50.0%ずつとなった。

図表 地-18 組織種別V活動ツールの形態

	件数	1.地域通貨	除地域通貨	2.パスポートタイプ	3.カードタイプ	4.表彰状
全体集計	128	49.2%	50.8%	35.2%	7.8%	7.8%
社会福祉協議会	16	16.7%	83.3%	72.2%	5.6%	5.6%
自治体	14	42.9%	57.1%	35.7%	14.3%	7.1%
教育委員会	15	0.0%	100.0%	57.1%	28.6%	14.3%
企業	5	40.0%	60.0%	40.0%	0.0%	20.0%
NPO・任意団体	55	76.4%	23.6%	20.0%	1.8%	1.8%
生協・農協	2	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%
商工会	5	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
財団・公益・独立行政法人	6	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%
その他	6	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%

V活動ツールの作成については、地域通貨は「独自で作成した」が92.1%と他のツールより高い。

図表 地-19 形態別ツール開発状況

	1.独自で作成	2.他の組織が作成したものを活用	3.他の組織から利用を依頼された	その他
全体集計	84.3%	11.8%	3.9%	0.0%
地域通貨	92.1%	6.3%	1.6%	0.0%
除地域通貨計	75.4%	20.0%	4.6%	0.0%
パスポートタイプ	71.1%	22.2%	6.7%	0.0%
カードタイプ	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
表彰状	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%

次に対象となる活動を見ると、地域通貨では、「たすけあい活動」が59.7%で一番である。(複数回答)

図表 地-20 形態別対象となる活動

	1.ボランティア活動全般	2.福祉関係の仕事	3.環境関係の仕事	4.国際協力関係の仕事	5.たすけあい活動	6.その他
全体集計	71.8%	32.3%	29.8%	5.6%	37.1%	4.8%
地域通貨	54.8%	38.7%	40.3%	1.6%	59.7%	6.5%
除地域通貨計	87.7%	27.7%	21.5%	9.2%	16.9%	3.1%
パスポートタイプ	95.6%	31.1%	17.8%	13.3%	20.0%	4.4%
カードタイプ	80.0%	20.0%	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%
表彰状	60.0%	20.0%	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%

どのような内容を掲載・添付しているかに関しては、ボランティア活動記録欄、シール貼付・スタンプ押印欄等確認するための欄が、パスポート(手帳)タイプ、カードタイプに比べて、地域通貨では明らかに低い。

図表 地-21 形態別掲載・添付内容

	1.V活動ツールの概要・説明	2.カレンダー	3.手引き・案内・注意事項	4.地域の活動団体一覧	5.広域の活動団体一覧	6.ボランティア活動記録欄	7.シール貼付スタンプ押印欄	8.ボランティア活動証明欄	9.活動メニュー一覧	その他
全体集計	53.3%	9.2%	35.0%	13.3%	8.3%	42.5%	32.5%	18.3%	25.0%	6.7%
地域通貨	61.0%	0.0%	20.3%	6.8%	1.7%	33.9%	18.6%	6.8%	30.5%	5.1%
除地域通貨計	46.8%	19.4%	50.0%	21.0%	16.1%	53.2%	45.2%	29.0%	22.6%	8.1%
パスポートタイプ	46.7%	24.4%	60.0%	26.7%	20.0%	62.2%	46.7%	33.3%	24.4%	4.4%
カードタイプ	37.5%	0.0%	37.5%	12.5%	12.5%	50.0%	87.5%	25.0%	25.0%	0.0%
表彰状	55.6%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	33.3%

(3) 実施の方法

利用者負担においても、地域通貨の場合「負担はない」は53.2%に留まり、全体平均の69.6%を大きく下回る。

図表 地-22 形態別利用者負担

	1.負担はない	2.ツール購入費用	3.入会金	4.会費
全体集計	69.6%	13.6%	6.4%	16.0%
地域通貨	53.2%	16.1%	11.3%	30.6%
除地域通貨計	83.1%	12.3%	1.5%	3.1%
パスポートタイプ	80.0%	15.6%	2.2%	2.2%
カードタイプ	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
表彰状	80.0%	10.0%	0.0%	10.0%

形態別に配布対象を見ると、地域通貨は69.8%が、配布対象が会員（参加者）となっている。パスポート（手帳）タイプ、カードタイプ、表彰状は「一般」の方が多い。単純集計では、何らかの制限を設けているかどうか半々と報告したが、会員（参加者）の多くは地域通貨であることがわかる。

図表 地-23 形態別配布対象

	1.会員（参加者）	2.ボランティア登録者	3.一般	4.他の組織
全体集計	54.8%	27.0%	48.4%	5.6%
地域通貨	69.8%	19.0%	39.7%	1.6%
除地域通貨計	26.2%	33.8%	55.4%	7.7%
パスポートタイプ	24.4%	40.0%	51.1%	8.9%
カードタイプ	40.0%	30.0%	50.0%	10.0%
表彰状	20.0%	10.0%	80.0%	0.0%

なお配布対象では、パスポート（手帳）タイプ、カードタイプ、表彰状を使用する組織は、多くが自由記述において、コメントをひとつ加えてきた。「一般」か「会員（参加者）」かという回答がしっかりこなかったようである。「小学生」、「小中高生」といった具合に、対象となる年齢層をコメントしていた。一般でも地域通貨以外のツールを使う組織は、その多くが児童を中心的対象としていることがうかがえた。地域通貨の場合は、全く逆で、自由記述の中に、児童とか小中高生という言葉は見られなかった。成人相手の活動なのだろう。この対象の違いも、様々な質問において、地域通貨とパスポートタイプ（手帳）等との差が出る理由となっていると思われる。

配布後の活用状況確認について形態別に見ると、地域通貨では、「定期的に確認している」が43.1%で最も高く、「配布するだけで特に何もしていない」は20.7%に留まる。パスポート(手帳)タイプ、カードタイプでは、「配布するだけで特に何もしていない」が、それぞれ50.0%、40.0%で最も高い。

図表 地-24 形態別配布後の確認方法

	1.特に何もしていない	2.定期的に確認	3.最後に一度だけ、又は随時
全体集計	32.2%	33.0%	34.8%
地域通貨	20.7%	43.1%	36.2%
除地域通貨計	45.8%	20.3%	33.9%
パスポートタイプ	50.0%	19.0%	31.0%
カードタイプ	40.0%	20.0%	40.0%
表彰状	28.6%	28.6%	42.9%

(4) 導入の成果・評価

活動成果については、パスポート(手帳)タイプ、カードタイプが、「参加者の意欲が高まったり、ボランティア活動が盛んになった」「ボランティア活動の参加者が増えた」「ボランティア活動の質が高まった」という項目の割合が高いのに対して、地域通貨では、「参加者の意欲が高まったり、ボランティア活動が盛んになった」以外に、「組織内部の人の理解・協力が得られるようになった」「地域の理解・協力が得られるようになった」「運営協力者が増えた」「活動の種類が増えた」といった項目が70%以上であり、成果と言えるものが多岐にわたっている。

図表 地-25 形態別導入の成果

	1.参加者増	2.コミュニケーション	3.意欲高まる	4.周囲の理解	5.組織内理解	6.地域の理解	9.質高まる	10.活動領域広	11.活動種類増	12.運営協力者	14.地域経済
全体集計	72.1%	76.0%	83.8%	63.7%	74.2%	70.8%	63.2%	64.9%	70.8%	63.9%	26.4%
地域通貨	65.4%	65.5%	76.8%	58.8%	75.0%	74.0%	51.0%	68.5%	71.7%	73.6%	35.4%
除地域通貨計	76.8%	65.4%	89.7%	67.3%	69.4%	64.6%	74.0%	59.6%	68.1%	48.9%	14.3%
パスポートタイプ	76.9%	68.6%	89.7%	64.9%	73.5%	59.4%	76.5%	56.3%	71.9%	46.9%	10.7%
カードタイプ	87.5%	75.0%	88.9%	75.0%	50.0%	100.0%	85.7%	83.3%	83.3%	83.3%	16.7%
表彰状	66.7%	44.4%	90.0%	70.0%	66.7%	60.0%	55.6%	55.6%	44.4%	33.3%	25.0%

同じく配布後の確認方法別に活動成果を見ると、全ての項目の割合が、上から「定期的に確認している」「取り組み期間の最後に一度だけ又は随時確認している」「配布するだけで特に何もしていない」の順になった。確認するから活動成果が見えるのか、活動成果を上げるには定期的に確認を行うなど基本的なことをやっておく必要があるということか。

図表 地-26 確認方法別成果

	1.参加者 増	2.コミュニ ケーション	3.意欲高 まる	4.周囲の 理解	5.組織内 理解	6.地域の 理解	9.質高ま る	10.活動 領域広	11.活動 種類増	12.運営 協力者	14.地域 経済
全体集計	72.1%	76.0%	83.8%	63.7%	74.2%	70.8%	63.2%	64.9%	70.8%	63.9%	26.4%
配布のみで特に何もしない	60.0%	65.5%	71.0%	44.8%	51.9%	46.2%	48.1%	46.4%	63.0%	44.4%	11.5%
定期的に確認	78.8%	85.7%	88.9%	84.4%	83.3%	90.3%	73.3%	83.9%	78.1%	77.4%	50.0%
随時、最後に一度	70.6%	71.9%	88.2%	59.4%	81.3%	73.3%	63.3%	63.3%	69.0%	74.2%	22.2%

成果と成果をクロスさせると、「ボランティア活動の参加者が増えた」「ボランティア活動の参加者同士のコミュニケーションが活性化した」「参加者の意欲が高まったり、ボランティア活動が盛んになった」が相互に高い。次いで「組織内部の人の理解・協力が得られるようになった」「地域の理解・協力が得られるようになった」と回答した割合が高い。

図表 地-27 成果別成果

	1.参加者 増	2.コミュニ ケーション	3.意欲高 まる	4.周囲の 理解	5.組織内 理解	6.地域の 理解	9.質高ま る	10.活動 領域広	11.活動 種類増	12.運営 協力者	14.地域 経済
全体	72.1%	76.0%	83.8%	63.7%	74.2%	70.8%	63.2%	64.9%	70.8%	63.9%	26.4%
参加者が増えた	—	83.1%	94.6%	74.3%	84.6%	78.1%	81.3%	81.3%	78.5%	72.3%	25.9%
コミュニケーション活性化	92.2%	—	88.5%	74.0%	82.9%	79.4%	71.4%	60.9%	62.9%	71.4%	29.0%
意欲高まり活動盛ん	82.4%	81.2%	—	73.8%	83.3%	75.0%	74.0%	72.7%	74.0%	70.1%	27.9%
組織内部理解協力	80.9%	82.9%	91.5%	74.3%	—	77.6%	75.0%	74.6%	83.8%	75.0%	27.9%
地域経済の活性化	71.4%	81.8%	86.4%	68.2%	81.0%	86.4%	66.7%	72.7%	63.6%	86.4%	—

満足しているかどうかでは、組織種別にいうと財団法人、教育委員会、自治体、社会福祉協議会等が比較的高めであり、商工会とNPO等は低い。

図表 地-28 組織種別別満足度

	1.満足	2.満足していない
全体集計	61.6%	38.4%
社会福祉協議会	62.5%	37.5%
自治体	71.4%	28.6%
教育委員会	80.0%	20.0%
企業	60.0%	40.0%
NPO・任意団体	55.6%	44.4%
生協・農協	0.0%	100.0%
商工会	60.0%	40.0%
財団・公益・独立行政法人	83.3%	16.7%
その他	50.0%	50.0%

NPO等と商工会は、地域通貨をツールとしているところが多いので、ツール別に見ると「地域通貨」の満足度が最も低く58.3%に留まる。

図表 地-29 形態別満足度

	1.満足	2.満足していない
全体集計	61.6%	38.4%
地域通貨	58.3%	41.7%
除地域通貨計	69.2%	30.8%
パスポートタイプ	62.2%	37.8%
カードタイプ	80.0%	20.0%
表彰状	90.0%	10.0%

活用状況把握とのクロス集計で見ると、「定期的に確認している」が満足度が最も高く、「配布のみで特に何もしていない」が最も低い。学校と同様のデータである。

図表 地-30 確認方法別満足度

	1.満足	2.満足していない
全体集計	61.6%	38.4%
配布のみで特に何もしない	45.9%	54.1%
定期的に確認	71.1%	28.9%
随時、最後に一度	64.1%	35.9%

全体に提案者についての「組織内部から・外部から」とのクロス集計では、満足度や成果をはじめ、全質問において、特徴的な差は見られなかった。この点が学校と違う点である。最初は団体の外部から薦められたとしても、地域の場合、取り組むと一旦決めたら、モチベーションは変わらないということだろうか。

「苦労した点、工夫した点」では、地域通貨は「ボランティア活動情報の収集」ないしは「ボランティア受入れ団体との連絡・調整」は極めて低い。パスポート(手帳)タイプ、カードタイプ、表彰状では、この二つは、小さくない割合となっている。

図表 地-31 苦労・工夫した点

	1.資金の調達	2.しくみづくり	3.参加者の募集	4.参加者への周知	5.組織内部への周知	6.活動の継続	7.他の組織との連携	8.地域との連携	9.行政との連携	10.企業との連携	11.学校との連携	12.ボランティア情報収集	13.ボランティア団体との調整	その他
全体集計	18.3%	41.7%	27.5%	36.7%	14.2%	18.3%	8.3%	14.2%	2.5%	4.2%	10.8%	12.5%	9.2%	2.5%
地域通貨	22.2%	49.2%	34.9%	41.3%	12.7%	22.2%	6.3%	14.3%	4.8%	6.3%	1.6%	1.6%	3.2%	9.5%
除地域通貨計	14.3%	27.0%	17.5%	27.0%	15.9%	15.9%	9.5%	11.1%	0.0%	0.0%	19.0%	25.4%	14.3%	3.2%
パスポートタイプ	42.2%	26.7%	11.1%	24.4%	15.6%	15.6%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%	20.0%	24.4%	13.3%	2.2%
カードタイプ	20.0%	30.0%	20.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%
表彰状	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	40.0%	20.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	30.0%	10.0%	0.0%

追加・修正したい点では、「地域通貨」が「地域通貨の流通のしくみの変更」、「地域通貨の形態の変更」を比較的高い割合で挙げており、現状に満足できず、なお改革を求めている姿が見える。NPO等と商工会という民間団体では、「地域通貨」を中心にかなり高いレベルのしくみの確立を求めているようであり、それが、全体に満足度を他より低くしているのではないだろうか。

図表 地-32 形態別追加・修正したい点

	1.V活動 ツールダー の概要 説明	2.カレン ダ	3.手引 き・案 内・注 意事 項	4.地域の 活動団 体一覧	5.広域の 活動団 体一覧	6.ポラン ティア活 動記録 欄	7.シール 添付ス タンプ 欄	8.シール スタンプ やりか た	9.ポラン ティア活 動証明 欄	10.割引 商品等 の特典	11.表彰 制度の 導入	12.認定 制度の 導入	13.寄付 団体の 集客付 先選定	14.地域 通貨の 形態の 変更	15.地域 通貨流 通のし くみの 変更	16.特に なし	その他
全体集計	25.7%	3.5%	20.4%	9.7%	8.0%	7.1%	2.7%	7.1%	7.1%	9.7%	4.4%	6.2%	9.7%	13.3%	22.1%	14.2%	8.0%
地域通貨	26.3%	3.5%	15.8%	8.8%	8.8%	3.5%	3.5%	5.3%	0.0%	12.3%	0.0%	1.8%	12.3%	26.3%	43.9%	5.3%	5.3%
除地域通貨計	25.9%	3.4%	25.9%	12.1%	8.6%	10.3%	1.7%	6.9%	12.1%	6.9%	8.6%	8.6%	6.9%	0.0%	1.7%	20.7%	10.3%
パスポート	22.0%	2.4%	24.4%	12.2%	9.8%	7.3%	2.4%	7.3%	17.1%	7.3%	12.2%	9.8%	9.8%	0.0%	0.0%	24.4%	4.9%
カードタイプ	37.5%	12.5%	37.5%	25.0%	12.5%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%
表彰状	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	22.2%

(5) ボランティアに対する意識

V活動ツールの実施形態別に、団体のボランティアに対する意識を見た場合、地域通貨が、「ボランティア組織の実際の運営には、どちらかと言えば、意欲よりマネジメント能力の方が重要だ」に「賛成する」が62.3%と他ツールを大きく上回った。また「ボランティアの仲間づくりは、結局口コミが最も有効だ」は90.3%で、やはり他ツールを大きく上回った。「ボランティア組織は、積極的にボランティア活動の企画を提案すべきである」は他にも高い中、96.8%と特に高い。「『ボランティアはちょっとかっこいい』というイメージを広めたほうが効果がある」は59.7%で、他の形態よりは少し高い。全体に地域通貨は、他の形態と比べて、姿勢が積極的な様子が見られる。

図表 地-34 形態別質問8(9)(11)(12)(29)に「賛成」の割合

	9 マネージメント	11 口コミ	12 かっこいい	29 企画提案
全体集計	50.4%	80.0%	51.8%	92.1%
地域通貨	62.3%	90.3%	59.7%	96.8%
除地域通貨計	32.2%	67.9%	46.7%	85.0%
パスポートタイプ	30.0%	73.7%	47.6%	85.7%
カードタイプ	30.0%	62.5%	33.3%	88.9%
表彰状	44.4%	50.0%	55.6%	77.8%

組織種別では、「ボランティア組織の実際の運営には、どちらかと言えば、意欲よりマネジメント能力の方が重要だ」に大きな差が見られた。この差は、NPO・任意団体は地域通貨を実施している団体が多いからである。(p 40、図表地-18参照)

図表 地-35 組織種別質問8(9)に「賛成」の割合

	9 マネージメント
全体集計	50.4%
社会福祉協議会	23.5%
自治体	33.3%
教育委員会	42.9%
企業	50.0%
NPO・任意団体	61.0%
生協・農協	0.0%
商工会	71.4%
財団・公益・独立行政法人	50.0%
その他	75.0%

把握方法別に見ると、「ボランティア組織の実際の運営には、どちらかと言えば、意欲よりマネージメント能力の方が重要だ」で、大きな差が見られた。「配布するだけで特に何もしていない」が38.2%に対して、「定期的を確認している」は63.9%と高かった。

図表 地-36 把握方法別質問8(9)に「賛成」の割合

	2 楽しくなければ	3 表彰すべき	5 報酬目当てでもよい	9 マネージメント
全体集計	72.9%	53.2%	24.3%	50.4%
配布のみで特に何もしない	63.6%	61.8%	11.8%	38.2%
定期的を確認	73.7%	45.9%	27.8%	63.9%
随時、最後に一度	89.2%	47.4%	30.0%	42.1%

満足・不満足別に見た場合、大きな差のついた質問を挙げてみた。「勤労者には時間的なゆとりがないので、ボランティア活動に参加させることは難しい」について「賛成する」と答えた割合は、満足は9.6%のみ、不満足は32.6%となった。満足していると回答する組織は、勤労者の巻き込みに自信を持っている。

不満足の方が、「ボランティアの仲間づくりは、結局口コミが最も有効だ」「『ボランティアはちょっとかっこいい』というイメージを広めたほうが効果がある」「一緒にV活動ツールを使う仲間・団体を増やすべきだ」といった質問に賛成と回答する率が高かった。

図表 地-37 満足不満足別質問8(8)(11)(12)(25)(26)に「賛成」の割合

	8 勤労者巻き込み難しい	11 結局口コミ	12 かっこいいイメージ	25 定期的を確認すべき	26 仲間団体を増やすべき
全体集計	18.7%	80.0%	51.8%	74.4%	87.3%
満足	9.6%	71.4%	45.2%	65.2%	78.3%
不満足	32.6%	95.6%	63.0%	82.6%	97.8%